

## 2011年度の事業報告

各事業実施にあたっては、運営委員会を中心に関連部会等にて見直しをすすめながら、参加を増やし、裾野を広げることに力を注いだ結果、参加者は過去最多となり、他団体等との協働、連携もすすみました。

また、新公益法人制度への対応に関し、公益財団法人への移行認定申請に向けた諸作業や、定款・規則類の整備等の準備をすすめ、事務局業務の見直しもすすめました。

### 1. ネットワーク・広報・研究・助成事業

- ①. ネットワークのつどい（維持会員総会・助成報告会）
  - ・昨年度より交流やネットワーク機能強化を目的に運営を見直し、維持会員総会、助成報告会、交流会の3点を併せ持つ交流事業として開催し、61名が参加されました。
  - ・助成団体報告：「岡山野生生物調査会」「御津の「みどり」と「清流」を守る会」から、前年度助成活動の報告がありました。その他の団体は、交流会で概要を報告しました。
  - ・理事会報告：2010年度事業・決算、2011年度計画・予算、監査報告を事務局より報告しました。
  - ・交流会：会員間の交流、特に問題の共有化を目的に、「自然環境」「社会環境」「啓発活動」の3テーマに別れグループ討議を行ない、情報や活動ノウハウを交流し、連携や支え合いを作る機会をつくりました。開催後、参加者間でのメーリングリストの立ち上げや、新規会員の加入につながりました。



●ネットワークのつどい・報告会  
グループ交流

- ②. ホタル委員会・ホタルフォーラム
  - ・ホタル団体交流会を年3回開催（4月：22名参加、7月：21名参加、10月：20名参加）し、幼虫の上陸、飼育、飛翔状況や各団体の取り組み交流をすすめました。
  - ・第9回ホタルフォーラムを倉敷市立琴浦北小学校にて「蛍遊会」の協力のもと、倉敷市と共催で開催し、76名が参加されました。川崎医療福祉大学教授・梶田博司氏の記念講演『岡山県のホタル事情』と、倉敷市役所水島支所建設課・岡本勇氏の基調報告『児島由加のホタルについて』の後、県内2団体による取り組み報告（『ヒメボタルと身の上ばなし』美和哲也氏・唐松ホタル同好会、『矢掛高校とホタル』室貴由輝氏・岡山県立矢掛高等学校教諭）がありました。会場内では、活動紹介のパネルや、ホタルの写真展示がありました。午後からは昼食交流の後、地元「蛍遊会」が保全に取り組む「蛍遊の水辺」の見学を行いました。
  - ・昨年度出版した単行本『ホタルと人と文化』（著者：青山勲氏・梶田博司氏）1,000冊の普及をすすめました。



●第9回ホタルフォーラム



●第9回ホタルフォーラム  
「蛍遊の水辺」見学

- ③. 第三回おかやま環境シンポジウム：自然環境部会
  - ・県内の様々な関係者とのネットワークをつくるため、団体、専門家、事業者、個人、行政関係者が集い、情報交換・交流を行う機会確保を目的に、自然環境部会の企画・運営のもと開催し、50名が参加されました。
  - ・今回のテーマは『山と海をつなぐ川の役割』とし、各報告から今の課題や解決策、問題点等について考えました。「NPO 法人長良・自然とくらし楽校」(岐阜県)・市原弘生氏の基調講演『水辺の保存は緊急かつ最大の課題』の後、岡山の自然を守る会・友延栄一氏『岡山の川について一緒に考えましょう』、岡山県水産研究所・高木秀蔵氏『川と海とのつながり～河川からの栄養塩～』、ランデス株式会社代表取締役・大月隆行氏『共生の川づくり～企業としての取り組み事例』の報告があり、その後交流をすすめました。



●第三回おかやま環境シンポジウム

- ④. ニュース、ホームページ、メールニュースの発行
  - ・「おかやま環境ネットワークニュース」を隔月で年6回発行し、個人、団体、企業の交流につなげました。
  - ・月2回のメールニュースの発行と、ホームページの更新を通じ、情報提供をすすめました。
  - ・ホームページの累計アクセス数は141,000(3月末現在)となり、1ヶ月あたり2,210件となりました(リニューアル前は1ヶ月あたり552件)。
  - ・メールニュースの登録者数は積極的に各事業の参加者を中心に登録を呼び掛けた結果、昨年度末の345名から654名に倍増しました。各事業への参加申込は、メールニュースの返信によるものが多数を占めるようになりました。



●第三回おかやま環境シンポジウム  
大月隆行氏

- ⑤. 環境家計簿の普及：環境家計簿委員会
  - ・2010年の実績報告は177家族からあり(モニター数303)、その内2009年と2010年の2年間分が揃った有効データ数は120家族となりました。
  - ・有効データ120家族の実績をまとめた「環境家計簿レポート」を5月に岡山市と協働で発行しました。環境家計簿活動の成果として、2010年のCO<sub>2</sub>排出量は前年比5.8%の削減、総量で38,367-CO<sub>2</sub>kgの削減につながりました。
  - ・2011年の実績報告は343家族からありました(モニター数570)。
  - ・2012年のモニター登録数は、岡山市の太陽光補助事業との協働ができたことなどにより、676名と大幅に増やすことができました。
  - ・くらしの見直しにつなげる啓発ツールとして、11月初旬に「環境家計簿カレンダー2012」を岡山市と協働で発行し、会員とモニターに合計で1,000冊送付しました。



●ネットワークニュース No.64



●環境家計簿カレンダー2012

- ・ 政府がすすめる「グリーン家電エコポイント事業」、「住宅エコポイント事業」の寄附対象に環境家計簿活動が採択され、寄附活用の一つとして、新たにホームページ上でモニター登録や実績集計ができるシステム開発を行いました。

## ⑥. 助成事業

- ・ 2011年度は12団体に99.6万円助成しました。
- ・ 2012年度は6団体へ90万円助成します。
- ・ 10年間の助成事業の成果をまとめた報告集「おかやま環境ネットワークがささえた環境保全活動1999～2008」を助成部会にて編集作業をすすめ、出版しました。
- ・ 2012年度要項について助成部会を中心に検討をすすめ、ネットワークの強化等を目的に「協働事業」枠を新設しました。

## 2. 啓発事業

### ①. 環境講座

- ・ 市民を対象に環境問題を正しく理解し、意識啓発や行動を促し、社会全体の持続可能性を形づくる基本概念を学ぶことを目的に、9～3月までの7回シリーズで岡山市との共催で、また岡山県生涯学習大学の指定を受け開催しました（毎回、山陽新聞の「情報ひろば」に掲載してもらいました）。
- ・ 充実した講師陣、講演内容のもと、受講者には大変好評でした。昨年度より、より参加しやすいよう受講料を無料とし、132名が参加されました。
- ・ 2011年度の講師とテーマ 『自然環境と調和した人間社会の維持発展を図る』
  - 1) 就実学園理事長・千葉喬三氏『環境とは何か』
  - 2) 岡山理科大学理学部教授・野上祐作氏『人間にとって大気とは何か?』
  - 3) 京都大学名誉教授・奥田節夫氏『水の流動、循環の実態に基づく水資源利用と水環境保全』
  - 4) 岡山理科大学准教授・山口一裕氏『地球環境を守る土壌のはたらき』
  - 5) 元岡山大学准教授・白井浩子氏『持続的社会的条件を創りましょう』
  - 6) 環境省中国四国地方環境事務所・柄本廣宣氏『地球環境問題と日本の環境政策』、最上祥成氏『持続可能な社会づくり・自然との共生の観点から』
  - 7) 岡山大学社会連携本部本部長・青山勲氏『自然と人間の共生を図ること、持続可能な社会構築のために』
- ・ 数年間同様の企画となっているため、2012年度以降の環境講座のあり方について運営委員会を中心に検討をすすめました。



### ●ホームページ（環境家計簿活動）

### ●助成実績一覧 ※金額：万円

年度	団体数	金額
99	5	65
00	7	100
01	13	110
02	13	137
03	16	150
04	11	102
05	15	147
06	15	129
07	12	120
08	15	150
09	11	94
10	10	93
11	12	100
12	6	90
合計	161	1,587



●環境講座 野上祐作氏



●環境講座 千葉喬三氏

## ②. テーマ別講座

- ・第1回：映画『ミツバチの羽音と地球の回転』上映会と鎌仲ひとみ監督トーク会

持続可能なエネルギーのことを自分の問題として考えるきっかけをつくることを目的に、「ミツバチの羽音と地球の回転・岡山上映実行委員会」と共催で開催し、おかやま環境ネットワークから44名（参加総数：540名）が参加されました。

この映画の山口県祝島とスウェーデンでの取り組みには、未来のエネルギーをどうするのか、持続可能なくらし方や解決のヒントがありました。



●鎌仲監督トークの様相

- ・第2回：『リサイクル・処分場見学エコツアー ～リサイクルや廃棄物処理の現場から資源の有効活用について学ぼう！～』

循環型社会の形成に向けてくらしのあり方について考えるきっかけをつくることを目的に、「山上新最終処分場」「エフピコ福山リサイクル工場」の施設を見学し、大量生産・大量消費・大量廃棄が、地球資源の枯渇や有害物質の放出による環境問題を引き起こしている現状の社会・経済システムのあり方や、「もの」や資源を大切にし、ゴミを減らしていくために、自分たちができることについて考えました。

生活協同組合おかやまコープ岡山東エリアと共催し、岡山県「環境学習エコツアー事業」として開催し、38名が参加されました。



●エフピコ福山リサイクル工場

- ・第3回：『海辺教室 in 高島干潟 ～干潟の役割とその大切さを実感しよう！～』

新岡山港のすぐ南にある高島干潟という身近な自然に触れ、そこに棲む生きものを観察し、干潟そのものと、そこに棲む生物たちが、汚れた水を浄化する作用を担っていることなどについて学び、私たちのくらしと自然環境の密接な関わりに気づき、一人ひとりが環境問題への関心を高めることを目的に開催しました。岡山野生生物調査会事務局長・関西高校教諭・吉鷹一郎氏を講師に、当日は絶滅危惧種の「チワラスボ」や「オキシジミ」など27種が見つかり、生きものたちを実際にさわったり、見たりすることで生命のつながりや環境を守っていくことの大切さを実感する機会となりました。

生活協同組合おかやまコープ岡山東エリアと共催し、92名が参加されました。



●海辺教室 in 高島干潟

## ③. ファミリープログラム

- ・生物多様性の日記念ファミリープログラム ～自然にふれあい、楽しんで、地球の未来を考えよう～



●海辺教室 in 高島干潟

親子で、自然にふれあい、楽しみながら、自然環境のことを考えるきっかけをつくることを目的に開催しました。開催にあたっては、岡山県農林水産部水産課と岡山県農林水産総合センター水産研究所の全面的なご協力をいただくことができました。

午前中に『おかやまの水産業』、『海の世界・生物のつながり』の講演の後、岡山県農林水産総合センター水産研究所を視察し、午後から西脇海岸にて、海ゴミ・アマモの学習と地引網体験を行いました。

生活協同組合おかやまコープ、岡山県消費者団体連絡協議会、岡山県生活協同組合連合会と共催のもと開催し、55名が参加されました。



●生物多様性の日記念ファミリープログラム・水産研究所視察

・エコファミリー講座『のどろ原まるごと探検』

自然にふれ楽しんで環境を考える取り組みをすすめる、子どもたちや若い世代の環境マインドを高め、いのちの大切さを子どもに伝え、自然環境や普段の暮らしを考えるきっかけをつくることを目的に開催し、21家族64名が参加されました。

岡山大学大学院環境学研究科准教授・嶋一徹氏、元川崎医科大学・清水泉太氏、岡山県自然保護センター・山田勝氏、岡山市操山公園里山センター・山崎光氏、富村森林組合・山崎博嗣氏の指導のもと、源流にすむいきもの観察、アマゴのつかみ取り、光に集まる虫の観察会、コウモリのお話、伐採見学、原っぱ探検、体験学習『間伐と温暖化の関係・炭素の固定』、伐採木でのマイ箸作り、そうめん流しなどを行いました。

今年度は参加を増やす為、参加形態を4パターンに分け参加費を設定し割安感を出したり、岡山県や岡山市教育員会の後援を受け近隣小学校でのチラシ配布等の改善を図りました。また、コープCSネット虹の会の支援をいただきました。



●エコファミリー講座  
水辺教室

④. 自然災害からの学習・交流会

東日本大震災を受け、市民が自分で少しでもリスクを理解した上で判断し行動できる力や、情報を読み取る力をつけることを目的に開催しました。科学者の専門的視点からの情報提供や、問題意識の提起をもとにディスカッションできる機会としました。

- ・ 第一回：おかやま環境ネットワーク関係者を対象に9名の参加のもと、青山勲理事長からの『原発問題』の現状解説と情報提供をもとにディスカッションし、『震災からの学習・交流会』の具体化について検討をすすめました。
- ・ 第二回：『自然災害の実態とその対策～岡山における地震、津波災害を主対象として～』をテーマに奥田節夫氏（京都大学名誉教授、おかやま環境ネットワーク評議員）を講師に開催し、41名の参加がありました。



●エコファミリー講座



●自然災害からの学習・交流会  
奥田節夫氏

### 3. 他団体や行政などとの関係

#### ①. 他団体等との関係

- 第3回『水環境フォーラム in 岡山』を「(社)日本水環境学会中国四国支部岡山地域分科会」、「岡山理科大学環境教育地域支援研究会」と共催で開催しました。『水質改善が進む児島湖の現状と課題』をテーマに、岡山大学大学院環境学研究科教授（おかやま環境ネットワーク評議員会）・河原長美氏の講演『児島湖水質の経年変化の統計的検討と浄化対策』と、岡山県環境保健センター・藤田和男氏の講演『児島湖の水質と植物プランクトン』、岡山理科大学理学部教授（おかやま環境ネットワーク理事）・野上祐作氏の講演『笹ヶ瀬川及び倉敷川から児島湖へ流入する水量』の報告の後、総合討論を実施し、34名が参加されました。
- 第4回『水環境フォーラム in 岡山』も同様に共催で開催し、『台風12号に伴う大出水の「旭川中下流域の生態系」への影響』をテーマに、『台風12号による大出水の特徴と被害』国土交通省岡山河川事務所所長・植田彰氏、『大出水時における河川水位と水温の変動』岡山理科大学・北岡豪一氏、『大出水に伴う中下流域における水質と河床地形の変化』岡山理科大学・山口一裕氏、『高島干潟を含む中下流域の魚類相に対する大出水の影響』岡山理科大学・齋藤達昭氏、『中下流域の水生昆虫相に対する大出水の影響』関西高等学校教諭・吉鷹一郎氏の報告の後、総合討論を実施し、36名が参加されました。
- 『蛍光管フォーラム2011 in 岡山』を「特定非営利活動法人コンシューマーズ京都」「岡山県消費者団体連絡協議会」と共催で開催しました。愛媛大学客員教授・貴田晶子氏による講演『我が国の水銀規制の現状と課題』と、野村興産株式会社から『蛍光管リサイクルの現状と課題』の報告、岡山県消費者団体連絡協議会から『岡山市の蛍光管リサイクルの取り組み』の報告があり、26名が参加されました。
- 「おかやまエネルギーの未来を考える会」の「瀬戸おひさま発電所(仮称)」市民共同発電4号機設置事業を後援しました。
- 「錦海湾の未来を考える」シンポジウムを後援しました。
- 「全国ホテル研究大会」を後援しました。
- 「海底ゴミ回収底曳き網体験学習」を後援しました。
- 「ミツバチの羽音と地球の回転」上映会(会場:岡山県立図書館、くらしき健康福祉プラザ、備前市民センター)を後援しました。
- ドキュメンタリー映画「フクシマは今―隠されるヒバクシャ」の上映と藤田祐幸氏講演会を後援しました。



●第3回水環境フォーラム in 岡山



●第4回水環境フォーラム in 岡山  
植田彰氏



●第4回水環境フォーラム in 岡山  
パワーポイント資料



●蛍光管フォーラム2011 in 岡山

- ・日本科学者会議岡山支部「第19回総合学術研究集会」の後援を承認しました。

## ②. 行政などとの関係

- ・「岡山県協働による環境学習推進事業運営委員会」、「岡山ESD運営委員会」、「岡山市環境保全審査会」へ参加し、役割を發揮しました。
- ・岡山県「環境学習エコツアー事業」に「テーマ別講座②リサイクル・処分場見学エコツアー」が採択され開催しました。
- ・岡山市と協働で「環境家計簿レポート」「環境家計簿カレンダー」を発行しました。
- ・岡山市との共催、岡山県生涯学習大学指定のもと「環境講座」を開催しました。
- ・岡山県・岡山市教育委員会後援のもと「エコファミリー講座」を開催しました。
- ・倉敷市と共催で「第9回ホテルフォーラム」を開催し、各種マスコミ等の後援をいただきました。
- ・倉敷市「ストップ温暖化くらしき」を後援しました。

## ③. 寄附・支援・共催等

- ・環境家計簿関連事業に、政府がすすめる「グリーン家電エコポイント事業」より59件・856,787円（累計257件・1,408,539円）、「住宅エコポイント事業」より27件・61,273円（累計54件・69,497円）のご寄附をいただきました。
- ・全日信販株式会社より、39,226円のご寄附をいただきました。
- ・エコファミリー講座に、コープCSネット虹の会より90,000円助成していただきました。

## 4. 法人管理等

### ①. 新公益法人制度への対応と公益財団法人移行に向けた準備

新公益法人制度への対応として、各種情報収集を行い、運営委員会、理事会、評議員会で検討し、制度に沿った定款・規則類の整備、役員・組織体制の確立、申請書類等の準備をすすめました。

また、最初の評議員選定に関する「評議員選定委員会規則」をつくり、岡山県の認可を受け、評議員選定委員会を開催し、最初の評議員の選任をすすめました。

### ②. 「主催・共催・協賛・後援等に関する規程」の整備

他団体等からの共催や後援依頼が増えてきたため、おかやま環境ネットワークが関与する催しにおける関与の適否についての基準及び関与手続きを定めることを目的に、「主催・共催・協賛・後援等に関する規程」を整備しました。

③. 基本財産の満期償還対応

2011年9月に満期償還となる利付国債の運用について検討をすすめ、買い換えました。

④. 財政

- 収入合計は、共催や補助金等の申請を積極的にすすめたことと、各事業への参加者やエコポイント寄附が想定より多かったことなどにより、予算比 109.6%、前年比 104.5%となりました。
- 事業費合計は、新規事業の実施や各事業への参加総数は昨年を上回っていますが、運営の見直しなどにより予算内（予算比 94.4%）にコントロールできました。管理費は、人件費・物件費の削減をすすめ、管理費合計では予算比 87.0%、前年比 93.0%となりました。
- 当年度予算は、助成活動報告集の出版経費分等の赤字予算としていましたが、上記の結果、当期収支差額は 275,004 円の黒字となりました。